

ガヤツク 僕はあなたが？何にを云をふとしてゐるのだから想像がつく——さあ、皆おつしや
い。

ルーシ 私達は身分が違ふのですもの。あなたのお父さまは辯護士ですのに——私は小間物
屋なのですもの。それに何にもかも私達の間に來るものは……

ガヤツク 僕等の間に何があるのですか。今この瞬間、僕があなたの手を握つてゐる間に
何にが僕等を裂くものがあるのです？ いや、いつだつてこの通りです。僕等は全生涯お
互に愛しながら終るでせう。僕はそう、たつた今決心したのです。

ルーシ どうしてあなたはそうすることができて？ あなたはお家族のことをどうするお
積り？

ガヤツク 僕はそんなことどうでもいいのです。そんな家族のことなどは向ふでどうにかすれ
ばいいのです。

ルーシ それだつて私はあなたのやうな世界にある方を立派な人にするのできるやう
な女ではありませんわ。

ガヤツク 僕の世界はあなたではありませんか。あなたばかりではないか——僕の全世界は。

ルーシ それでも私は極く僅かしかお金がとれないのですもの。

ガヤツク 僕が二人分稼ぐよ。

ルーシ 何にをして？

ガヤツク 解らないけれど、僕は新聞記者になる。

ルーシ それだつてもう澤山新聞記者はあるではありませんか。

ガヤツク ええ、それはその通りです。この上は注目されないのでせう。併しもうそんなことは
話すまい。僕は些しも當惑などしやしませんよ。ねえ！ たつた二人きりの生活はそれは
簡単な人生に過ぎやしませんよ。

ルーシ ええ、それでせうか？

ガヤツク 僕には人が人生の缺點を指摘するのが解りません。何故つて、僕はあなたを得てゐ
る間は、總ては全く異つてゐるのです。僕は橋の下で寝たつて何んとも思ひやしません
僕は南亞弗利加へさへ行くことができます……

ルーシ 私もそうよ、よろこんで。ですけれどそれでも同じですわ、私は矢張り少し心配ですわ。

グヤツク そんな心配する必要はありません。あなたは僕がどんな事でも考へてゐるといふことが解らないのですか？

ルーシ それは解りますわ。

グヤツク 僕は必要に面したならば、働きますよ。僕は若くつて強いのですもの。何にが！ 將來のことなんぞ僕は怖れやしません。さあ、キッスをおしなさい！

ルーシ 將來。それが私は怖ろしいのです。

グヤツク 何にが心配なのです？ 約束ですか？ 事件そのものがですか？

ルーシ 両方とも。將來といふものは私達の知らない或るものなのですもの、扉の後にあるやうな、何にかなのですもの——私達はそれから通れることのできません、それは先に導いてあるのですもの。將來といふことは私には何んですか悲しく響くのです——悲哀といふ他の言葉のやうにね。

グヤツク さあ、よろこぶをふ！ 愉快にしやう！ そんなことは馬鹿のことです。僕等の時代

に人生が悲哀だなんてことがあるなら、僕は知りたいものだ？

ルーシ でも私達はいつもの若い時代であることはできませんわ。

グヤツク できないことがあるのですか。人間といふものは戀をしてゐない時は年を取るものなのです。

ルーシ まあ、あなた。本當にあなたは可愛い優しいことをおつしやるのね、本當にあなたは私を泣かせますのよ。

グヤツク 僕は二度と再びこれからあなたを泣かせたくないのです。

ルーシ それではあなたはどうしやうといふの？

グヤツク 僕はあなたに何んのことでも考へさせたくないのです。僕はあなたを恰度目醒めた夢を見てゐるやうに、水の中の輕艇の中で目をつぶつて、僕の兩腕に抱かれて人生の流れに浮ばさせて置きたいのです。

ルーシ 私はそのやうに舟に乗つて遊ぶのが大好きなのですわ。ねえ舟に乗りませうよ？

ヂヤツク ええ、巻揚汽船が浮いて、影と、神祕なそして古い木が浸つてゐる美しい川の……
ルーシ お芝居の場面のやうな、ねえ、そうでなくつて？ それから湖水にも行きませうよ、
ねえ？

ヂヤツク ええ、蘇格蘭の湖水でも、伊太利の湖水でも——あなたの好きなどこの湖水にでも
行きませう。

ルーシ それから月のあります湖水にね。

ヂヤツク え、勿論ですとも。

ルーシ 本當に、あなたは可愛い方ね。

ヂヤツク ルーシさん、ルツちゃん、小さい愛ちゃん！（女に接吻をする。）

ルーシ 何故小さいなんてあなたはおつしやるの？

ヂヤツク 何故つて何んの意味もありやしない。僕は大にうれしいからさ。

ルーシ それは私もよ。私はもう自分のやうではありませんのよ。私は帽子などにさよう
ならをしてつたやうに思はれますのよ。私はこの場所から決して動かれないやうに

——それから喰へることもそれから飲むこともできないやうに。これが戀といふものなの
でせうね？

ヂヤツク そうです、誰れもそういつてゐます……

ルーシ ですけど、私小説で讀んだのですけれど——これではあなたを苦めますのね——

——人といふものは戀の爲めには泣きもすればそれから死にもしますつてね、

ヂヤツク 馬鹿だね！

ルーシ それでは小説は間違つてゐますの？

ヂヤツク それは當前です。そんな奴に戀なんぞ解るものですか。

（全く日が暮れる。）

ルーシ ねえ、あなた、私は——壁を注意するやうな——私達自身の小さな室が欲しいと考
へてゐますのよ。その時は私達は夜中に別れるやうなことはいりませんものね。いつそん
な時が来るのでせう？

ヂヤツク それは解らないが、多分、直でせう。

ルーシ ええ、ですけれど、あなたは怖くなくつて……

グヤツク 大丈夫。心配する必要はない。大丈夫。

ルーシ 私はもつと二三年齡をとつてゐればよかつたのね。

グヤツク 何んでです？

ルーシ もつと確かですからよ。

グヤツク 馬鹿だね。どうしてもつと確かであつたからつて何んになるのです？ 僕は約束してゐるではないか、それから誓つたり、接吻をしてゐるではないか。僕は外の人とは違ひます。僕は一度自分自身を與へたからには未來永劫變りません。あなたはそうではないのですか？

ルーシ それは、そうすわ——私は永久よ、それよりも。

グヤツク それでは！ 僕等は二人ともそんなに永久に對しての約束をしたからには——何にが怖れることがあるのです？ 何んにもありやしない！ 何んにもありやしない！——どうでないか。

ルーシ ええ、ですけれど、ただ……

グヤツク ただ何んです？

ルーシ でなければ……

グヤツク それが何んです？

ルーシ 何にもかもあまり美しいのですもの——とてもそんなことは不可能ですわ。私時として、このことを考へますと……

グヤツク そんなことを考へてはいけません。あなたはあんまり考へ過ぎます。さあ、接吻しなさい。さあ、あなたの手を僕に握らせなさい。そして眞暗間でもそを見られるやうにご覧んなさい——僕はあなたの眼が自分のもののやうに思はれる。さあ、あんまり早く話してはいけません。僕の名前を静かにおつしやい。それでなければ、何んにも云はないでおくれ？

さあ、僕等は静かにしてゐませう、ねえ？

ルーシ ええ。

グヤツク 何んの音一つ聞えて來ないではないか。

ルーシ 何んにも。

チャック 向ふの白い所は月で明るくなつてゐるのでせうか？

ルーシ ええ。

チャック (物苦しき様子で突然立ち上りながら) ね、ルーシさん！ ルーシさん！ ルーシさん！
ルーシ どうしましたの？

チャック 僕はあなたを愛してゐるのです。あなたは解らないのですか？ 僕はあなたを愛してゐるのです。

ルーシ 私はそれよりもあなたを愛してゐます。若しかしてあなたが盲目でありましてもそれから跛足でありましても、私はあなたを同じやうに愛するでせう。

チャック ねえ、ルーシさん。僕等が遠くへ一緒に行つたらどうでせう？ 明日？

ルーシ 遠くへとは？

チャック ねえ？ あなたはあの店を捨てて……

ルーシ ですけどあなたは？ あなたはお家の人をどうしますの？

チャック 僕は書置をします。僕等は外國から手紙を寄越せるではないか。

ルーシ まあ！ 私達はそんなに遠くまで行くのですか？

チャック ええ。僕は何にもかも話をしますがね——僕は八百法持つてゐるのです。

ルーシ 八百法！ それでは、私達はお金持ちね？

チャック ええ、僕等はだから注意さへすればね、それだけあれば少とも一年間暮されます。

外國の生活は巴里よりも安いからね。僕は廻轉する時間があります。ねえ？ 何んとかおつしやい。僕はあなたのこととで氣狂ひなのです。僕はあなたをどんなに敬愛してゐるか知れないのです。僕はこの地球の上には僕等二人きりしかゐなければいいと願つてゐるのです。

ルーシ あなた、ねえ、氣を落ち附けてください、お願いですから。ねえ、あなた、私はそうします。

チャック (有頂天によるこんで) あ、うれしい。ありがたう。

ルーシ ですけど今ではありませんことよ、それから明日でも。もつと後よ。

チャツク (失望して。) ああ!

ルーシ そうでないの。私確かではありませんの——私何んですか悪いことをしてゐますやうで——無謀のやうで——後で後悔されますやうで心配なものですもの。ねえ、もう少しお待ちなさいな——ねえ、こん度の日曜日まで、ねえ。

チャツク それではよろしい。僕は次ぎの日曜日まで待つてゐます。併しあなたは僕を愛してゐるでせうね?

ルーシ まあ! 私があなたを愛してゐるでせうつて?

チャツク 心一杯に?

ルーシ 一杯に……

チャツク それでは、ねえ。

ルーシ 注意なさいよ。

チャツク 誰れもゐやしないよ。

幕

大正十一年八月十四日印刷
大正十一年八月二十日發行

「村の娘」(無断興行を禁ず)
定價 壹圓五十錢



版權
所有

譯者 大 關 柁 郎

發行者 遠 藤 孝 篤
東京市牛込區神樂町二丁目十一番地

印刷者 猪 木 卓 二
東京市麹町區飯田町三丁目五十番地

發行所

東京市牛込區神樂坂通り
振替東京四四六八七番

文 泉 堂 書 店

現代佛蘭西戲曲傑作叢書
大關柁郎編譯

第一編 附 エルヴェー作「呪はれたる夫婦」(三幕) 定價壹圓三十錢
附 フランス作「クレインクビユ」(三幕) 送料 八錢

エルヴェーは佛蘭西のイブセンと稱せられる大家で社會の贅物を清めて宇宙の眞理を描出しやうとする作家である。氏はこの作に我が國の離婚法と等しき佛蘭西の離婚法の不合理を攻撃してゐる。その會話のデリケートにして明快、主人公若き夫人の燃えるやうな感情、讀むものをして魅惑せずには置かない力作であり、藝術的香の高い作である。

附録フランスは佛蘭西の思想家にして大文豪最近ノーベル賞金を得たことは世人の普く知る所、この作は氏の唯一の長篇傑作戯曲で巴里市街人の生活を描いた社會劇である。

第二編 附 ラヴダン作「若公爵」(三幕) 定價壹圓五十錢
附 ベルナル作「偽せ通辯」(一幕) 送料 八錢

ラヴダンは佛蘭西のシヨウとも稱すべき作家である。併し彼れの人物はシヨウの人物の如く作者の傀儡ではなく眞の活きた人間である。そして警句と諷刺は實に垢抜けした巴里人のやうである。この作は佛蘭西の貴族生活を描いてその凋落を諷刺したもの、丁度日本の貴族生活を佛蘭西人が書いたやうに親み深く、上品で喜劇のお手本のやうな感がする。

第三編 附 プリウ作「村の娘」(三幕) 定價壹圓五十錢
附 ラヴダン作「未來永劫」(一幕) 送料 八錢

プリウは梅毒劇の作者として世界的名聲を博してゐるが本國の佛蘭西では「村の娘」の作者として持咄されてゐる。氏の傑作で「自由劇場」に上演されて以來今日まで引續いて上演されつゝあり、佛蘭西の女子教育の缺陷を攻撃したものの主人公の村の娘は虛榮心の高い、日本の娘によく似た娘で兩親と衝突して巴里に放浪する生活を描いた面白い作である。

第四編 ドンネー作「情人」(五幕) 定價壹圓五十錢
送料 八錢

ドンネーは巴里子中の巴里子で人生の退屈より遁れる美しい救済法は戀愛であるといふ極く開放的な天性を持った作家で、「アナトル」の作家の先生である。戀愛は神聖なものであると道徳に超越するのも氏である。この作こそ巴里人の戀愛生活を描いた美しい氏の代表作であり、世界の戀愛劇中の戀愛劇で「アナトル」を愛する人々の是非讀むべき作だ。

第五編 キユレル作「化粧」(四幕) 定價壹圓三十錢
附 エルヴェー作「貞淑」(一幕) 送料 八錢

キユレルは佛文學者の大家吉江教授の驚嘆してゐる最も獨創的な作家である。トルストイを聯想させる作家で佛蘭西の貴族である。氏は道徳家であり心理學者であり、その不思議な天才的想像力は實に驚くべき深刻味を持つてゐる、この作は氏の傑作であつて貴族の老たる父と若き子が一人の美しい同宿の娘を戀ひ争ふて子の憤死を描いた怖ろしい作だ。

現代佛蘭西戲曲傑作叢書
大關柁郎編譯

現代佛蘭西劇曲傑作叢書
大關終郎篇譯

第六編 ロスタン作「ジャントクレール」(四幕)

十月中
旬發賣

ロスタンは世界的の大詩人であり劇作家であることは文學を愛好する人の普く知る所であるから敢て贅言を費すまい。その作者が八ヶ年の長年月を費して幾度か病床に呻吟しながら書いて世界を震撼した大作である。譯者また血を吐く思ひして苦心慘澹譯出したものその詩華が何に絢爛であるかは想像されべく動物の世界を借りて巴里の文壇を諷刺した物

第七編

ルメートル作「容赦」(三幕)
附 ドンネー作「彼等」(一幕)

十一月
上旬發賣

ルメートルは偉大なる劇評家として世界的名聲のある作家で、「容赦」は其の傑作でありまた世界の劇壇に普れく知られてゐる作である。僅か三人の人物を以つて三幕の戯曲を描き、聊かの弛みもなく観客を魅惑する、その技巧の優れたること實に驚嘆すべく、新劇の愛好者は勿論いやくも劇作家たらんと志す人の必讀を要する作である。

第八編 ペルンステイン作「盗人」(三幕)

十一月
下旬發賣

ペルンステインは問題を超越して現代佛蘭西劇壇中最も評判高き作家で、生れながらの劇作家であると云はれてゐる。氏の作は新しい問題劇でもなくまた深い思想劇でもない。然

現代佛蘭西劇曲傑作叢書
大關終郎編譯

第九編

カビユー作「辯護士とその娘」(三幕)
附 ケールラベ作「處世法の選擇」(一幕)

十二月
上旬發賣

カビユーは佛蘭西劇壇の諷刺的現實主義者である。人生の活劇外に立つて人生を興味深く或は怒りばく、と云つても人々の良心に闖入せず人生を通過してゐる人である。だから氏は運命主義者であり樂天主義者である。この作も樂天的運命に操つられる、辯護士一家の奇しくまた面白き有様を輕快な筆で描いたもので、悲觀論者には是非一讀を薦める。

第十編

ベック作「巴里の女」(三幕)
附 ポート・リッシュユ作「彼女の幸福」(一幕)

十二月
下旬發賣

ベックの名はイブセン、アントワヌの名と等しく、今更茲に紹介する必要のない程近代劇愛好者に知られてゐる名である。氏は實に佛蘭西劇壇自然派の先生である。「巴里の女」は「鴉」と共に氏の傑作として新劇壇のお手本と目されてゐる代表作である。
ポート・リッシュユはドンネーと等しく情話劇の大家、作は優雅で肉感的で評判が高い。

發行所

東京市牛込區神樂坂通
振替東京四四六八七番

文泉堂

- 三島章道著 劇藝術小論集 定價壹圓五拾錢 送料八錢
- 三島章道著 演劇論と劇評集 定價貳圓貳拾錢 送料八錢
- メーテリリンク作 山村 魏譯 スチルモンドの市長 (戯曲集) 定價貳圓四拾錢 送料拾貳錢
- ゴールドンクレীগ作 渡平 民譯 新劇原論 定價參圓 送料拾貳錢
- 渡平 民譯著 歐米演劇史潮 定價貳圓四拾錢 送料拾貳錢
- 邦枝完二作 異教徒の兄弟 (脚本集) 定價貳圓七拾錢 送料拾貳錢
- 新居 格著 左傾思潮 定價貳圓參拾錢 送料拾貳錢

大關柁郎戲曲集

第一卷 嵐 附 宣應接室の女傳

四六判箱入上製 定價一圓九十錢 送料八錢

著者大關氏は新劇壇の新進、歐米に留學すること七年餘その間演劇書を讀破すること二千餘冊觀劇すること四百餘「劇作家は何よりも第一に藝術家であらねばならぬ。そして豫言者であり、哲學者であり、文明批評家であり、詩人であり、新生活と新道徳の創造者であり、また人生と文化——幸福と愛と美の教育者であらねばならぬ」といふモットーを有する作家である。何んといふ高遠な信條であらう。自信なければ云へないことである。だが多くは廣告すまい。氏の言が違ふかどうかは作品自らが語るから。併し何んといふ偉大な作品であらう。「嵐」は日本演劇壇の傑作として必ず永遠性を有するといふことは斷言して憚らない。ホストン大學在學中約八年前の作であるといふに作者は爛眼にも今日の白蓮夫人の如き新夫人の出現を豫言してゐた。そして白蓮夫人と某氏をモデルにしたのではないかと思はれる程同じ境遇にある子爵夫人を主人公とした四幕物の長編戯曲である。劇愛好者は勿論白蓮問題に興味を持つものまた反感を抱くものに敢て一讀を薦む。

505

44

終